

## ① 電力需要見通し

### [ 販売電力量 ]

- 平成26年度の販売電力量は、景気が回復基調で推移するものの、前年の気温影響の反動減などから、2,686億kWh(前年比0.3%増)と前年並みとなる見通しです。
- 中長期的には、緩やかな経済成長を見込むものの、平成28年度からの全面自由化等による競争の激化、平成25年度並みの節電の継続を織り込んだ結果、平成24～35年度の年平均増加率は0.4%の伸びにとどまる見込みです。

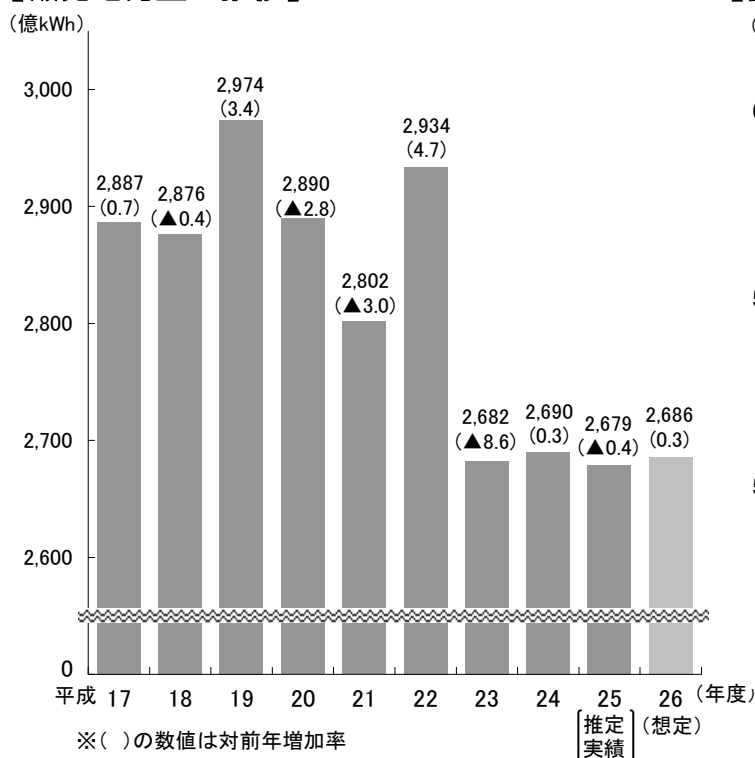
### [ 最大電力 ]

- 平成26年度の最大電力(送電端最大3日平均)は、販売電力量想定と同様、景気・節電見通しをもとに想定し、4,957万kW、前年比1.0%増となる見通しです。
- 中長期的には、販売電力量想定と同様、平成24～35年度の年平均で0.5%の伸びにとどまる見込みです。

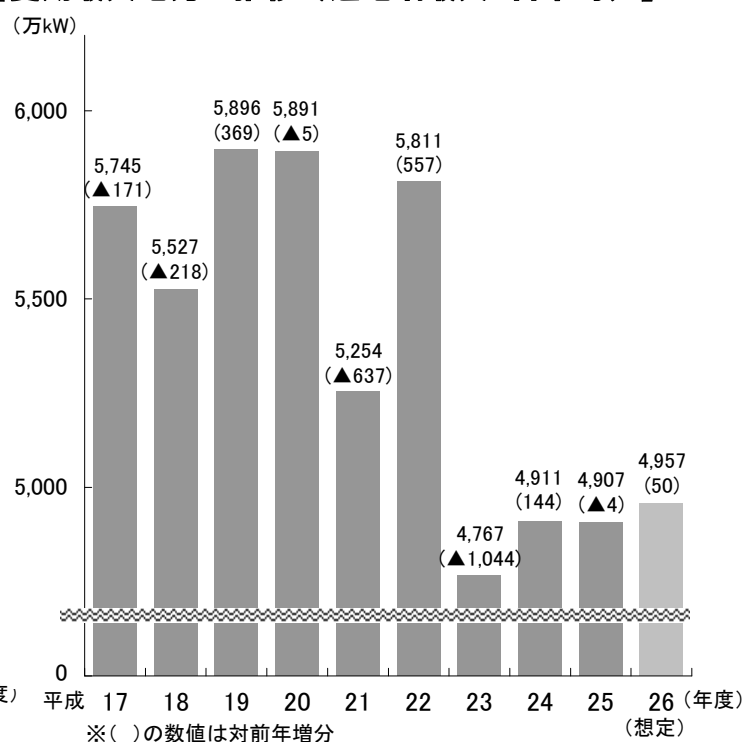
		平成24年度 実績	平成25年度 推定実績	平成26年度	平成35年度	平成24～35年度 年平均増加率 (%/年)
販売電力量 (億kWh)		2,690	2,679	2,686	2,802	—
	対前年増加率 (%)	0.3 (0.5)	▲0.4 (▲0.1)	0.3 (1.7)	—	0.4 (0.5)
夏期 最大 電力	送電端 最大3日平均 (万kW)	4,911	4,907	4,957	5,204	—
	対前年増加率 (%)	3.0 (7.4)	▲0.1 (▲0.9)	1.0 (1.7)	—	0.5 (0.5)

(注) 販売電力量の( )内は気温うるう補正後。最大電力の( )内は気温補正後の増加率。

### 【販売電力量の推移】



### 【夏期最大電力の推移 (送電端最大3日平均)】



## 2 電源設備計画

### 【主要な電源開発計画】

	地点名	出力(万kW)	運転開始年月
水力	神流川3～6号	47×4	36年度以降
	葛野川4号, 3号	40×2	26/6, 36年度以降
LNG 火力	川崎2号系列2軸, 3軸	142 (2号系列合計は192)	28/7, 29/7
	千葉3号系列	150	26/4, 26/6, 26/7
	鹿島7号系列	124.8	26/5, 26/7, 26/6
	横浜7号系列(増出力)	+2.7×4	28/8, 27/8, 29/8, 29/2
	横浜8号系列(増出力)	+2.7×4	29/6, 30/2, 28/2, 28/6
	五井1号系列	213	36年度以降
原子力	東通1号, 2号	138.5×2	未定
新エネ	東伊豆風力	1.837	27/8

### 【緊急設置電源等の廃止計画】

	地点名	出力(万kW)	廃止年月
緊急設置 電源	大井1号GT	12.8	26/4
	川崎1号GT	12.8	26/4
新エネ	八丈島風力	0.05	26/3

## 3 流通設備計画

### 【主要な送変電設備整備計画】

	件名	電圧(kV)	規模	運転開始年月
送電	西上武幹線新設	500	110.4km	26/6
	川崎豊洲線新設	275	22.2km	28/3
変電	大井ふ頭(仮称)変電所新設	275	900MVA	29/3
	新佐原変電所変圧器増設	500	1,500MVA	28/5
	港北変電所変圧器増設	275	450MVA	29/3
	代官山変電所新設	275	600MVA	36年度以降

(注) 送電の規模欄は亘長, 変電の規模欄は増加出力を示す

## 4 広域運営

### 【電源の広域開発計画】

	地点名	開発会社	出力(万kW)	運転開始年月
原子力	大間	電源開発(株)	138.3	未定

### 【広域連系設備の整備計画】

	件名	電圧(kV)	規模	運転開始年月
50Hz-60Hz 連系	東京中部間 直流幹線(仮称)新設	DC±200	約100km	32年度
	新信濃交直変換 設備(仮称)新設	—	900MW	32年度